



補 大学機能強化支援事業費補助金
(債務負担行為限度額3億円)

経済効果や市への便益は

概要 西九州大学佐賀キャンパス内で計画している新学部の開設に対し支援を行う。

Q 補助額3億円の積算根拠は。

A 新学部の設置による社会的、経済的な効果を期待して企業誘致の雇用奨励金を参考に決定した。

Q 経済効果やそれ以外に想定される市への便益は。

A 他大学の事例として国や県が試算した学生1人当たりの年間消費額120万円から170万円程度を、新学部の定員400人規模に当てはめて、年間の経済効果を5億円から7億円と見込んでいる。市にとっての便益としては、新学部の設置により地元進学や市外からの高校生の受け入れにつながり、また大学を卒業した人材が市内に定着して地元企業等で活躍することが期待できる。さらに学生がさまざまな地域活動に参加することで若者と共創するまちづくりの推進につながるものと期待している。

補 スポーツ交流施設整備支援事業費補助金
(債務負担行為限度額6億円)

施設活用の展開方向は

Q プロスポーツのトップチームの練習場であるこの施設の活用の展開方向は。

A 佐賀バルーンズのトップチームが練習しない時間帯は市民のスポーツ活動の場として貸し出される予定であり、また、地域の祭りなど地域コミュニティの活動増進や大規模災害時の避難所への活用も想定されている。また、子ども向けのバスケットボール教室などスポーツ振興につなげることも計画されている。

Q 建設予定地は過去に浸水した地域であるが、立地に当たって地理的な問題への対応策はあるのか。

A 練習施設は佐賀バルーンズの事務所付近に整備することを検討されており、街の南北軸強化とも連携できるエリアであることから建設予定地に選定した。周辺道路の過去の浸水や進入路の橋が狭いことは認識している。イベント時等の交通渋滞への対策は必要であり、まちなかの駐車場の利用促進も検討したい。



佐賀バルーンズの試合の様子

Q 工事が始まる前に近隣住民に対して説明が必要では。

A 市としては佐賀バルーンズが地域と共生していける交流施設となるよう運営していくことが重要と認識している。佐賀バルーンズと協議して、工事着工前に自治会との調整の上、近隣住民に工事に関する説明をするようにしたい。

条 火葬場条例の改正

今後のスケジュールは

Q 施設の老朽化や耐震性能不足のため川副葬祭公園を廃止する必要があるとのことだが、自治会長の反応は。

A つくし斎場まで距離があり不便になる。南部地域に新たな火葬場を建設してほしい。終了の周知期間では限り長く確保してほしいとの意見があった。

Q 本議案が可決された場合、その後の取り扱いには丁寧な対応が求められる。今後のスケジュールは。

A 終了時期を当初の予定から1年延長するなど丁寧な対応に努めてきた。今後はより一層、住民の目線に立った火葬場の運営に努めたい。スケジュールとしては早い時期に川副町4校区の各自治会長会で改めて丁寧な説明を行い、市報やホームページでの広報、葬祭業者への周知を予定している。